

<総評> 今月の優秀作品は圧倒的に十代を中心にした若い人が多かった。感性の質が違ってきたような気がする。時代が変わろうとしているのか。この欄の功績のひとつだろうか。

自意識の穴から噴き出してくる海

大橋 弘典 群馬県 19歳

——自意識という深さも幅も計り知れない穴からは海だって出てくる。

幸せに暮らすことしか許されない

ジジババさまの不幸な生活

加藤悠 愛知県 17歳

——衣食住が足りていることを幸せという現代。そろそろ変わってもよいかも知れない。

枯野ゆく槍持つように傘持って

長谷川柊香 宮城県 22歳

——枯野、槍、傘という道具立てだけで時間や空間を越えて、ある鮮明な像が生まれる。これが言葉の底力。

民族は

デザインだ

桜咲 千葉県 17歳

——民族とひと口に言っても国境のように人為的にハッキリしているわけではない。その民族が時間の中で自ら作り上げたかたち・デザインをいう。

保育士の姉は

その言霊はよかったかな？

と叱っている

桜咲 千葉県 17歳

——乱暴だったりきれいでない言葉をたしなめるとき、言葉が持っている「言霊の働き」を大切に意識を持つ。優秀な保育士さんだろう。

でこぼんの

でこの部位へと刃を下ろし

うすくかがやきだす春の午後

さいう 愛知県 17歳

——でこぼんの、どこまでが「でこ」で、どこからが「ぼん」か。それは人間のどこまでが「にん」で、どこからが「げん」かと同じ。

空のふかいところにふれて

たまむしの

背中にむっ、と銀河がすべる

さいう 愛知県 17歳

——意味はわからなくても「むっ、と」すべれば詩にはなる。

キエフ

雨から見たら

世界の方が

降ってきてるんだよ

立花ばとん 東京都 20歳

——空の上から悲劇をみればこう見えるのだろう。もう一度ひっくり返せば元に戻るだろうか。

ほうれん草の

お浸しくらい疲れた、と母

夏原 神奈川県 33歳

——これ以上無い実感。

雪と水水と雪水入れかわる

沢 美香 宮城県 22歳

——文字とそれが表すものが組み合わせで変化していく。現象のデジタル化。

夫が退職した明くる日  
空気って重さがあるんだって  
初めて気付いた私  
渡辺 恵子 徳島県 62歳

——私たちは生に使役されている。その鎖を不意に外されると見えてくるもの。

句読点うつように眠る

読みやすくしとくから誰か

開け私を

藤堂游 愛知県 20歳

——句読点はくせもの。うっかり開くと何が起こるか恐ろしいぞ。

不幸だと自覚できない

幸福の像に触れて、

わたしやっとな、

飛べる気がした。

Im 沖縄県 20歳

——不幸とは何か、幸福とは何か、単独では理解できないものだから両方触れてやっとな分かる。

世界中のひまわりは  
ゴッホの影響を受けている  
火鯨研 熊本県 26歳

——人間はそうだが、ひまわり自身はどう考えているのだろうか、と考えてしまう。余計なお世話は詩の機能のひとつ。